

神奈川県立大磯高等学校

令和5年度第2回学校運営協議会 議事録

日時 令和5年11月27日(月) 16:00～

場所 本校会議室

出席者

立花	ますみ	大磯高等学校 校長
八木	英一郎	東海大学経営学部教授
櫻井	英明	大磯町立大磯中学校 校長
常盤	健嗣	大磯高等学校PTA会長
小澤	香苗	タウンニュース 大磯・二宮・中井編集長
村上	実樹	湘南ケーブルネットワーク アナウンサー
小嶋	勝己	大磯町東町自治会長

欠席者 北澤 浩一 大磯高等学校 同窓会会長
齋藤 永悟 大磯町政策総務部政策課長

事務局 副校長、教務G(菊川)、進路指導G(穴田)、
研究開発G(奥川)、生徒支援G(関根)、総務G(芳賀)、
研究開発G(中澤)(大池)

出席 15名

議事 司会…事務局(研究開発G)

1 校長挨拶

2 議長選任 八木 英一郎 東海大学経営学部教授

3 各グループより(学校評価報告書にそって)

教育課程・学習指導 教務G、研究開発G

・新たな学習評価、授業改善、ICTの活用状況、留学生の受け入れ

生徒指導・支援 生活支援G、生徒会G

・教育相談体制、生徒の抱える課題

・部活動や校外の活動の活性化

進路指導・支援 進路指導G

・今年度の進路実績、進学支援体制

地域等との協働 総務G、生徒指導G

・PTA活動、地域との連携による防災訓練

学校管理・学校運営 副校長、総務 G

・教員への 1 人 1 台端末配布、広報活動

質疑応答

①イングリッシュキャンプは業者に依頼しているのか。(八木様)

→外部の専門業者に依頼して実施した。本来は三日間のプログラムだが、初年度のため二日間の日程で行った。参加生徒は 30 名を超えた。(奥川)

・グローバル指定校でなくなってもイングリッシュキャンプを続けるのか。(八木様)

→指定校でなくなった場合、参加生徒が最低人数に達するのが問題。(奥川)

グローバル指定校でなくても本校生徒の課題である表現力を伸ばす取り組みとしてイングリッシュキャンプは最適な取り組み (副校長)

②サポートドックは県の取り組みか。(小澤様)

→神奈川県 of 県立学校全体で行われている取り組み。(関根)

③主体的に学習に取り組む態度について現状どのような評価をしているか。(櫻井様)

→振り返りシートを活用して評価している。今後、全体で前期評価方法の共有していきたい。(菊川)

全教科でポートフォリオ評価をしている。(副校長)

④SC や SSW に生徒をつなげるためにどのような精査をしているのか。(小澤様)

→サポートドック実施後に担任が該当生徒を呼び出して確認。問題がほとんどなければ以後担任の観察。命に関わる、自傷、いじめ等の緊急性が高い生徒は優先してつなげている。(関根)

⑤グローバル指定校であることで英語に関わる進路選択が増えているのか。(常盤様)

→グローバル教育は英語の力を伸ばすだけでなく、コミュニケーション力等を育てるなどの広い意味。ただし、きっかけづくりにはなっている。(奥川)

⑥総合型入試の指導はどのように行っているのか。(八木様)

→専門的なことはその教科の教員だが、全体で取り組んでいる。その学部学科で学びたいという意欲がある生徒が多く、指導の面白さがある。

入試が多岐にわたっており、発表が苦手な本校の生徒はなかなか厳しい。(穴田)

5 令和6年度からの学校教育計画について 副校長

質疑応答

①学校によってミッションは異なるのか。(八木様)

→異なるが大きくは変わらない。(副校長)

②他の学校と比べた大磯高校ならではの特徴はなにか。(八木様)

→町に一つの高校であるため、町との連携が積極的にできる。(副校長)

6 その他

新制服の紹介

7 情報交換意